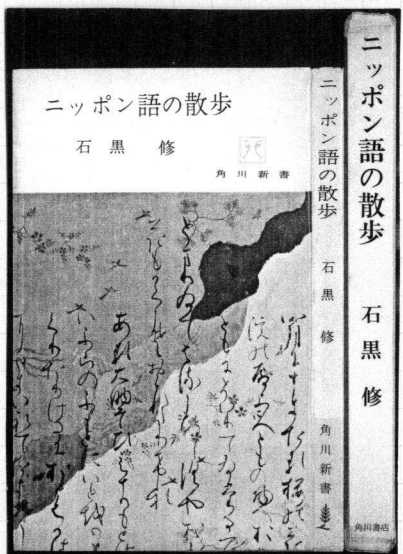


石黒修 いししろ 國語評論家。明治二十一年八月三日愛知縣生れ、昭和五十五年八月十五日歿（一九九一—一九〇〇）。本名修治^{ふしはる}。法政大學中退。國語教育研究所所長、國語審議會委員、エス・プラン・ト學會理事、カナヒジカイン評議員、國語協會常任理事等歴任。文部省國語學教育指導書編集委員、委員長を務めた。

著書『漢字字體整理案—國語審議會發表』（編、昭和十二年十一月五日國語協會）、『日本語の問題—國語問題と國語教育』（七版・昭和十六年三月一日修文館）、『國語問題篇』（合著、昭和十六年七月一日朝日新聞社「國語文化講座」）、『國語教育篇』（合著、昭和十六年九月二十日朝日新聞社「國語文化講座」）、『日本語の世界化—國語の發展と國語政策』（昭和十六年十一月—二十五年修文館）、『こぼの生活』（昭和十八年二月—二十日二友社）、『日本の國語』（昭和十八年六月—二十日大阪・辯進堂「少國民選書」）、『美しい日本語』（昭和十八年七月十八日光風館「女性新書」）、『ローマ字教育の諸問題・I』（多田齊司・柴田武合著、ローマ字運動本部編、昭和二十二年五月十日ローマ字教育會「ローマ字教授法通信講座」）、『こぼの教育』（昭和二十二年十月—二十五年廣松堂書店「生活學校叢書」）、『國語教育の進路』（合著・全日本國語教育協議會編、昭和二十五年九月二十日昭森社「紀要」）、



『こぼ』（昭和二十八年七月一日朝日新聞社



「アサヒ相談室」()、
「コミック・ボク」の「数学」(昭和二十五年四月十日
角川書店、再刊・二十八年十月十日「角川新書」()、
「思い出の本」(昭和二十九年十月十五日出版・ニューズ社)等。